

幼稚園

# 奈良らしさを体験しよう！ 「鹿せんべいってこんなふうにできるんや」

附属幼稚園・教諭

竹内 範子

## 奈良を知ろう

奈良に住んでいる子どもたちに、奈良の良さや素晴らしさを体感させたい。文化遺産に恵まれたこの環境に触れる機会を多くもたせたい。と考えています。昨今の社会情勢や子どもたちの実態などから、園外に出ることが難しくなりつつある現状はありますが、そんな中でも、東大寺の大仏殿や二月堂まで遠足に出かけたり、近隣の鏡神社や白毫寺へ散歩に行ったりする活動を、職員が万全の体制を取りながら保育に



アツアツのせんべいどうぞ



園児の手作りの鹿せんべいをもって奈良公園へ



どんぐりひろい



お別れ遠足で浮見堂へ

取り入れています。

## 鹿せんべい工場へ見学

奈良に住む子どもたちにとつて鹿はとても身近な存在です。昨年の秋に、自分たちでどんぐりの鹿せんべいをつくり、奈良公園の鹿にあげに行くと、う経験をした年長児は、特に鹿に対して愛着を感じているようです。

そこで2月のある日、年長児の子どもたちは、鹿せんべいづくりの工場を見学に行くことにしました。「今日は奈良公園で売っている本物の鹿せんべいが

どんなところで、どんなふうに見えるのかを探検に行くよ」と告げると「わあーっ」という歓声があがります。幼稚園から大学を通り、西へ向かって子どもたちの足で40分ほど歩くと住宅街の中に鹿せんべいを作っている小さな工場がありました。

香ばしいにおいに心躍らせながら中に入ると、大きな機械の前でもくもくとせんべいを焼くおじさんがいました。子どもたちが寄って行くとおじさんができたアツアツのせんべいを手渡してくれます。「わあー、アツアツ

や」「えーっ！ 食べていいの」。いかにもおいしそうに見えるせんべいを手に、ちよつと躊躇しながらもあつちでも「パクッ」。こつちでも「パクッ」。米ぬかと小麦粉だけでできているので、ほとんど味はないのですが、できたての熱さがおいしく感じさせてくれるのでしょうか。初体験の味にみんなにっこり。「食べた鹿になった気分」と鹿のまねをする子どももいました。

機械から次々出来てくるせんべいに感嘆の声をあげたり、見たことのない機械のおもしろさに目を輝かせたりしました。鹿せんべいがこんな粉からできること、おじさんが独りで作っていること、機械でたくさんできることなどたくさんのお見せをしました。何よりも鹿せんべいの味を体験できたことが嬉しかったようです。

このような奈良ならではの楽しい活動をこれからも保育の中に取り入れて、奈良教育大学附属幼稚園だからこそ体験できる保育を模索していきたいと考えています。